

令和4年度 第2回 霧島市ふるさと創生有識者会議

開催日時	令和4年10月31日(月) 10:00~11:35		
開催場所	国分公民館3階 大研修室		
出席者	有識者	本田 泰寛 委員長、川東 千尋 副委員長、仮屋 良江 委員、 橘木 真由美 委員、泉 仁志 委員、武田 和大 委員、斑目 信行 委員、 中村 有佐 委員、村上 和 委員、田間 美沙緒 委員、林 慶藏 委員、 鶴ヶ野 未央 委員、蘆田 慶子 委員 (全15委員中13人が出席)	
	霧島市	地域政策課：今村 主幹兼中山間地域活性化G長 商工振興課：西村 主幹兼商工観光政策G長、 中村 企業振興室サブリーダー、春口 主任主事 観光PR課：下楠菌 主任主事 市民活動推進課：山口 道義高揚推進室室長兼市民環境政策・国際交流G長 保健福祉政策課：森山 主幹兼政策G長 子育て支援課：小橋 主幹兼子ども・子育てG長 健康増進課：上小園 主幹兼保健予防G長 農政畜産課：内村 主幹兼農林水産政策G長 建設政策課：笛田 主幹兼政策G長	
	事務局	出口 企画部長、上小園 企画政策課長、藤田 主幹兼企画政策G長、 川床 企画政策Gサブリーダー、藤山 主任主事	
公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	0人
会次第 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 (1) 令和3年度末実績における霧島市ふるさと創生総合戦略の取組状況について <span style="float: right;">資料 1-1~1-3</span> (2) 市民アンケート調査の結果について <span style="float: right;">資料 2</span> (3) 次期総合戦略について <span style="float: right;">資料 3-1~3-3</span> 4 その他 5 閉会			
議事等の概要 ④：委員      ⑤：事務局			

**(1) 令和3年度末実績における霧島市ふるさと創生総合戦略の取組状況について**

→ 事務局（企画政策課）から「令和3年度末実績における霧島市ふるさと創生総合戦略の取組状況について」、資料1-1～1-3に基づき説明。

委員からの主な質疑等は次のとおり。

☒ 「立地協定締結件数（増設含む）」について、これまで延べ80件あり、令和3年度は6件締結したとのことだが、主にどのような企業なのか？

☑ 令和3年度の実績6件の業種については、主に製造業と物流関係である。

☒ 重要業績評価指標（KPI）の状況について報告があったが、順調なもの、目標値達成が難しいものがあると思う。現時点で達成が難しいと考えている指標はどのようなものか？

☑ 基本目標の成果指標について、観光関連の指標の「入込観光客数（宿泊＋日帰り）」、「観光消費額」などは、コロナ禍の影響を大きく受けており、旅行喚起策等に取り組んでいるが、達成は難しい状況である。また、「合計特殊出生率」についても、目標値1.84に対して令和2年度時点で1.65となっており、婚姻率も低下しているので、急激に向上し達成することは難しいと考えている。

☒ 子ども医療費助成について、受診時の窓口負担は怎么样了のか？

☑ 住民税非課税世帯の18歳到達年度末までの子どもの医療費については、現物給付となっており窓口での負担はない。住民税課税世帯の中学生までの子どもの医療費については、償還払いとなっており一度窓口で医療費を負担いただいて、後から負担額を支給する形となっている。

☒ 保護者等から「病院での窓口負担がなければいいのに」という声も聞くので、できれば窓口負担がなくなればいいと思う。

☒ 災害対応アプリ「きりしま防災・行政ナビ」について、現時点のダウンロード件数はどれくらいか？また、目標としている件数があれば教えてほしい。

☑ 担当課が出席していないので正確な数字は不明だが、約9,000件ダウンロードされていると聞いている。総合計画審議会においても、ダウンロード件数をKPIに設定してはどうかとの意見があり、関係課で検討中である。

☒ ANAとイトーヨーカドーが連携して実施する産直空輸について、主にどのような農林水産物を空輸しているのか？

☑ 令和3年度からANAの職員をアドバイザーとして招聘しており、空港所在地ならではの取組を検討し、産直空輸の実証事業を開始した。対象とする産品

については、生鮮品を主とし、これまで空芯菜などを空輸している。その時々旬なものを鮮度の高い状態で空輸するという形で実施し、直近では11月にも実施を予定している。

- ☒ 創業者数について、令和3年度の実績は4事業者との報告だった。超高速ブロードバンドの整備が進んだことと関連のある業種なのか？
- ☑ 創業者数の4事業者については、市の創業支援センターを通じて創業した事業者の数である。この4事業者の業種は、飲食店、音楽教室、スマホの中古販売、サービス業であり、光ブロードバンドの整備とはあまり関連はない。

## (2) 市民アンケート調査の結果について

→ 事務局（企画政策課）から「市民アンケート調査の結果について」、資料2に基づき説明。

委員からの主な質疑等は次のとおり。

- ☒ デジタル化について、オンラインで公共施設の予約等ができるように取組を進めているとのことだが、対象はどのような施設か？
- ☑ 体育館等のスポーツ施設だけでなく、公民館等も対象にする予定である。利用者が特に少ない施設などは一部対象外となるが、市民が利用する施設は、ほとんど対象にする方向で準備を進めており、令和5年度からオンラインでの施設予約を開始する予定としている。
- ☒ 学生の地元就職に関連して、県においても、学生等が地元企業のことをあまり知らずに働きたい業種がないと考えているのではないかと感じており、市と同様の認識を持ち、それに対する取組を進めている。県では、中高生を連れて、実際に働いている人にインタビューするような事業を実施している。市はどのように学生と地元企業のマッチングに取り組んでいるか？また、対象の業種はあるのか？
- ☑ 市内の高校と加治木工業を対象に5月から8月にかけて工場等見学会を実施している。見学先は学校の希望に沿って決めているが、主に製造業やサービス業が見学先となっている。また、2月、3月に30社程度の合同企業説明会を実施している。これらによって、まずは高校生等に市内にどのような企業があるのか知ってもらえるよう取り組んでいる。
- ☒ 高校2年生を対象に実施しているのか？
- ☑ 工場等見学会については、ほとんどの学校は高校3年生を対象にしているが、一部は2年生となっている。合同企業説明会の参加者については、学年等

の制限はなく、自由に参加できるようになっている。

- ㊦ 高校3年生になると既に進路が決まっていることもある。もっと早い段階の小学生、中学生のときから地元企業を知って関心を持ってもらうことが重要ではないかと感じている。
  
- ㊦ 市外に移りたい理由として、交通の便が悪いを理由としている人が38.7%おり、車がない方や駅周辺に住んでいない方だと思う。私も普段、バス停が近くになく、本数も少ないと感じている。特に中山間地域では、バス停も本数も少ない。車がなくても移動手段が確保できるよう、バスの本数を増やすなど改善に向けて取り組んでほしい。
- ㊦ バス停やバスの本数の増加を求める声がある一方、乗車人数は少ない実態がある。また、バス業界では運転手が不足し、路線を減便せざるを得ないところもでてきている。市においては、バスの小型化、AIやデマンド交通の導入など、利便性の高い公共交通に向けて様々な手法の活用を検討しているところである。
  
- ㊦ アンケートの項目設定について工夫した方がよいと感じた。また、「住み続けたい理由」で通勤・通学、買い物が便利であるが33.9%で3位となっている一方、「市外へ移りたい理由」では、交通の便が悪いが38.7%で1位となっている。交通の便が悪いと回答している人の住んでいる地域や年代を分析することで、今後の政策に生かすことができるのではないかと思う。

### (3) 次期総合戦略について

→ 事務局（企画政策課）から「次期総合戦略について」、資料3-1～3-3に基づき説明。

委員からの主な質疑等は次のとおり。

- ㊦ 自治会の加入率について、国分・隼人は50%程度、中山間地域は70～75%、あまりにも国分・隼人の数値が低いため、自治会加入率の算出の基礎について、現在は学生寮や企業の社員寮も含まれているが、これを外してはどうかという議論もある。学生や単身で社員寮に入っている人に自治会活動への参加を薦めても中々難しい面もある。算出対象から外せば数値的には向上する。  
また、自治会に関して先進地の視察等にも行ったが、他の自治体を見て比べると霧島市の方がいいと思うことが多かった。住んでいると今以上を望みたくなり霧島市のここがよくない、だめだと批判的な結果がアンケート等にも出るが、他と比べるといいところがたくさんある。

④ 総合戦略は、安倍内閣の時に、東京一極集中と人口減少をどうにかしようということで始まり、第1期を7年前（平成27年）に策定し、今回は3期目となる。この間、多くの自治体が国の方針に基づき総合戦略を策定しているが、どこのまちも似たようなことをやっている。よほど魅力的で独自性のある、子どもたちがワクワクするような総合戦略を作らなければ、中々結果は出てこないと思う。

12万8千人程いた霧島市の人口は今どうなっているのだろう。KPIには設定されていないが、市のホームページで見ると12万5千人程であり、7、8年で3千人位人口が減っている。人口が確実に減っている中で、アンケートでも市の取組に対する不満が出ているところもあるが、いいところもたくさんある。10年後の市の未来予想図を描き、それに向けて取り組んでいく、それをもっと情報発信して、若者がワクワクするまちにしてほしい。他の自治体に比べれば本当にいい取組をしているのに、まちの自慢や魅力が認識されていないと感じている。

⑤ 行政では、現実的な数値目標を設定し、それに向けて取り組むということが多く、大きな将来像を描いて、それに向けた取組を進めていくという視点は、苦手としているところである。意見を踏まえ、市の将来像に向けた取組を計画の中に取り入れていきたい。

⑥ スポーツキャンプ・スポーツ合宿・大会の誘致に関して、日本でも多くのプロリーグが始まっている。プロチームを誘致できる施設があれば通年で様々な団体を誘致できるのではないかと思う。プロの合宿等に特化した施設などがあれば、利用が見込めるのではないか？

⑦ 国分運動公園を中心に12月から3月にかけて多くの団体がスポーツキャンプを行っている。陸上競技場や多目的運動公園については、サッカーJリーグのチームがキャンプにきており、野球場については、社会人の野球やソフトボールチームがキャンプをしている。また、陸上競技場については、ラグビーもできるよう施設改修を実施し、ラグビーのキャンプを誘致したところである。

プロスポーツのキャンプ誘致については、自治体間での誘致合戦のようになってきている。宿泊施設やトレーニングジム、各種補助支援等を求められることもあり、どこまで対応していくべきかという課題もある。

⑧ サッカーやラグビー、ソフトボールのスポーツキャンプがあるとのことだが、地元の子どもの練習試合など、ふれあいイベントの実施等はしているのか？

⑨ ソフトボールは、学生との練習試合をするなどの交流をしている。市として

も各団体に地域住民や子どもとの積極的な交流をお願いしている。

- ㊦ 先日の和牛オリンピックで日本一となった和牛やお茶など世界に通用する、誇れる農林水産物があると思う。それぞれの業界で海外輸出に向けた取組などは行われているのか？
- ㊧ お茶であれば茶業振興会など、各業界に団体があり、それぞれで勉強会のようなものを行っているが、業界として輸出に取り組むとなると専用設備の整備が必要となりハードルが高いため、事業者ごとの取組となっている。

#### (4) その他

- ㊦ 住民と市が関わる一番の機会は、市役所の窓口であり、サービスの入口だと思う。先日、隼人市民サービスセンターに行く機会があったが、マイナンバー関係の手続の人で窓口が大変混雑していた。高齢者や障がいのある方もおり、座る場所もないような状況だった。職員の対応は素晴らしかったが、待っている人への声掛けや案内をする人がいてもいいのではないかと感じた。
- ㊧ 以前は、職員がフロアマネージャーとして、交代で窓口の案内をする取組を行っていたが、対応する職員も市の全ての業務は把握しておらず、上手く機能しなかったため廃止した経緯がある。現在、デジタルトランスフォーメーションの取組の中で、先進地で取り組まれている書かない窓口やワンストップ手続などの混雑を緩和できる取組を本市でも実現できないか検討しているところである。
- ㊦ デジタルトランスフォーメーションについて、市としても取組を進めていくということだが、デジタル化が目的となってしまうようにし、その先の業務の効率化や利便性の向上等を果たしていただきたい。
- ㊦ 私自身は、霧島市に初めてきたとき、温泉もあり素晴らしい観光地だと思ったが、若者の目線で見ると映画などのレジャー施設や買い物ができる施設がなく、若者や学生が魅力を感じる施設が少ない。若い世代が魅力を感じるまににできるよう対応することも重要なのではないか。

会議資料	会次第
	資料 1-1 霧島市ふるさと創生総合戦略(第2期)の取組状況について
	資料 1-2 霧島市ふるさと創生総合戦略(第2期)の成果指標・KPIの現状について
	資料 1-3 令和4年度霧島市ふるさと創生総合戦略(第2期)関連主要事業

資料 2	市民アンケート調査結果
資料 3-1	第二次霧島市総合計画 後期基本計画 施策体系と第3期総合戦略(案)
資料 3-2	第3期霧島市ふるさと創生総合戦略(案)
資料 3-3	第2期・第3期(案)対照表